# 高校生の被信頼感が信頼感に及ぼす影響について

# The effect of the re−trust upon the trust for high school students

泓　厚子　（岐阜大学心理教育相談室相談員）
緒賀　郷志　（岐阜大学教育学部）
FUCHI Atsuko
OGA Satoshi

**要約**

本論文は，“ 信頼されている ” と感じられる感覚である「被信頼感」について高校生を対象に調査したものである。高校生にとって身近な存在である父親・母親・親友からの被信頼感尺度を作成した。調査対象は２つの高校の生徒666名であった。その結果，被信頼感の感覚は「被信用」「被期待」「被共通」「被満足」「被受容」の５つの因子から成り立つことが明らかとなった。そのうち「被期待」では２校の学校間で差がみられた。性差においては，女子が男子より高い被信頼感を示した。また被信頼感の信頼感への影響では，男女ともに親友からの「被信用」が他人を信頼することに結びついており，親友の存在の重要性が確認された。さらに男子では，母親による満足感が感じられていることが他人を信頼することに影響を及ぼしており，信頼感には父親・母親および親友からの被信頼感が関連していることが明らかとなった。

**キー・ワード**：被信頼感，信頼感，高校生

**問題と目的**

近年高校生の反社会的な行動が問題となっている。そのような中，社会の変化に人間の生き方を合わせるような社会では何を信じていけばよいのか，青年期にいる人々はとても混乱していることと思われる。この青年期の行動に関連する概念として，子どもが抱く信頼感と自尊感情や学校適応感との関係性など多方面から今までに研究されてきた。酒井・菅原・眞榮城・菅原・北村（2002）によると，” 子どもの学校適応感に影響を与えているのは, 子が親に抱く信頼感の方で, 親が子に抱く信頼感とは関連が見られなかった ” と親子の信頼関係の中でも特に子の抱く信頼感形成の必要性を述べている。

他にもさまざまな研究（例えば，金子, 1994など）はあるのだが，今までの研究は「信頼する」という側面からの研究であり,「信頼されると感じる感覚（以下，被信頼感とする）」を検討した研究は見当たらない。

Erikson,E.H.（1959）は基本的信頼感について「他人を信頼」し「自分を信頼」する感覚の前段階である「安心していられる状態」が重要であるとしている。その状態とは，養育者が「信頼されているという確信に満ちているという特質に裏づけられた育て方」で接している子は「親しみの感情を味わい，それが内面的な善（goodness）という感じと一致する感情」を経験するという状態だと述べている。本研究ではこの善という感情と安心していられる状態が，Erikson の基本的信頼感の前段階であり肯定的な意味での被信頼感の一部であると考えた。さらにこの感情を精神的支えとして他人への信頼感が形成されると考え，この精神的支えである被信頼感が充足されることは，信頼感以上に人々の行動や感情に影響を及ぼすことが考えられる。

そこで，本研究では，被信頼感を新たに「自分が他者からの欲求を感じ，かつそれによりその他者から期待されていると感じる気持ち」と定義し，青年期の高校生がどのような被信頼感を父親・母親・親友に

抱いているかを測定する被信頼感尺度を作成し検討をする。さらに，様々な生活感情への関連が明らかにされている信頼感に被信頼感がどのように影響を及ぼしているかについて検証し，高校生の信頼感を高めるための示唆を得ることを目的とする。

## 方法

### 1.使用した尺度

#### （１）被信頼感尺度

被信頼感尺度の作成にあたって，被信頼感が他者の欲求を感じるという側面が含まれていることを踏まえながら，マズローの欲求階層モデルとコフートの自己モデルを基にした。その下位概念は,「他者を安心させること：自分が他者や社会に危害を加えない安心できる存在であると，その他者から期待されていることが感じられる気持ち」「他者と同じであること：自分が他者との共通点をもつ存在であると，その他者から期待されていると感じる気持ち」「他者を受容すること：自分が他者のありのままを受け入れる存在であると，その他者から期待されていると感じる気持ち」「他者を承認すること：自分が他者を承認する存在であると，その他者から期待されていることが感じられる気持ち」「自分が理想的な人間であること：自分が他者から頼られまたは自己実現を目指している存在であると，その他者から期待されていることが感じられる気持ち」の５つを想定した。さらに Erikson（1955, 1959）と天貝（2001）の信頼感に関する文献から被信頼感と関わる部分を調べ参考にし, 78の項目を作成した。これらの項目を心理学専攻の教官４名，大学院修士修了生１名，大学院生２名によって2003年７月に内容的妥当性の評定をしてもらい, 36項目に精選した。これらの項目は, 4件法で回答を求めた。

#### （２）信頼感影響経験測定項目

信頼感影響経験測定項目（天貝，2001）は，本研究で作成した被信頼感尺度の妥当性を検証するために使用した。この項目は65項目で構成されており，信頼感がどのような体験に影響されて発達してきたかを明らかにするために作成されたものである。項目は,「受容経験」17項目,「承認経験」14項目,「親との親密なかかわり経験」６項目,「対人的傷つき経験」６項目から成り, 4件法で回答を求めるものである。

#### （３）自尊感情尺度

学校・学年の格差を検討するために，自尊感情尺度を同時に実施した。これは Rosenberg,M.（1968）の尺度を星野（1970）が翻訳したもので, 10項目で構成され４件法で回答を求めるものである。

#### （４）信頼感尺度

信頼感尺度（天貝, 1995a）は，思春期・青年期以降における信頼感を多元的に捉え，測定することを目的として作成された。その下位尺度として「自分への信頼」「他人への信頼」「不信」の３要素から構成されている。24項目からなる質問に, 4件法で回答を求めた。得られた回答をそれぞれ１点から４点として得点化した。「不信」については，得点が高いほど不信が高いことを示すように得点化した。

### 2.調査方法

調査対象者は，X 県 Z 市の公立高校２校の生徒で，A 高校1, 2, 3年生の343名（男子185名，女子152名，不明６名），B 高校1, 2, 3年生の323名（　男子156名，女子164名，不明３名）の666名（男子341名，女子316名，不明９名）（１年222名, 2年220名, 3年215名，不明９名）である。2003年９月上旬に２校を訪問し，校長および教育相談担当教諭に調査の趣旨を説明し，調査への協力を依頼した。調査は，授業時間内に学級ごと担任教師によって一斉に実施した。回答は無記名で行い，学年・性別のみ記入する欄を設けた。

## 結果

### 1.被信頼感尺度の因子分析下位尺度の構成

36項目について，平均値と標準偏差の偏りと得点分布のヒストグラムにて偏りを調べた。その結果, 3つの項目においては，得点が４点の最高得点に回答する生徒が多く，尺度項目には相応しくないと判断し，削除することにした。残った33項目の因子分析をおこなった。主因子法にて因子を抽出し，バリマックス

回転を行った。後続因子との固有値の差に基づいて５因子解を適当と判断し，各項目の因子負荷量を得た。因子の解釈として，回転後の因子パターンにおいて絶対値.35以上の因子負荷量を示した項目の内容を中心として解釈することにした。そして５つの下位尺度の構成は，「被信用（信用されていると感じる）」尺度，「被期待（期待されていると感じる）」尺度，「被共通（他者が共通点を求めていると感じる）」尺度，「被満足（他者が満たされていると感じる）」尺度，「被受容（他者が受け入れられていると感じる）」尺度と命名した。父親・母親・親友のそれぞれの因子分析の結果は同様に上記５つの因子から構成されていた。本論文では父親の被信頼感尺度のみを掲載した（表１）。

父親の「被信用」15項目の信頼性はα＝.93,「被期待」α＝.80,「被共通」α＝.75,「被満足」α＝.63,「被受容」α＝.75であった。母親・親友についての下位尺度もほぼ同様の信頼性があった。被信頼感尺度全体では，父親，母親，親友いずれにおいても，α＝.93であった。

被信頼感尺度の各下位尺度の尺度得点の相関を見てみると，父親と母親の各下位尺度は相関が非常に高く,5つの同じ下位尺度間の全てに相関係数がr＝.70以上の強い相関がみられた。それと比較すると親友

**表１　父親についての被信頼感尺度の因子分析**

| | 項目 | 因子Ⅰ | 因子Ⅱ | 因子Ⅲ | 因子Ⅳ | 因子Ⅴ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 【被信用】 | | | | | | |
| 1 | ○○は、私のことを必要だと強く思っている。 | **.702** | .327 | .098 | .068 | .085 |
| 2 | ○○は、私に心をゆるしている。 | **.672** | .214 | .088 | .141 | .140 |
| 3 | ○○は、私を味方だと思っている。 | **.652** | .271 | .110 | .179 | .138 |
| 4 | ○○と話していると、「こんなに信用してくれているんだ」と感じる。 | **.608** | .260 | .333 | .246 | .011 |
| 5 | ○○は、私と一緒にいると心が休まるようだ。 | **.591** | .152 | .173 | .219 | .214 |
| 6 | ○○は、私が○○に感謝すると素直に喜んでくれる。 | **.535** | .402 | .169 | .029 | .100 |
| 7 | ○○が元気のない時、○○は私に助けてもらいたいだろう。 | **.518** | .130 | .347 | .148 | −.068 |
| 8 | ○○は、私のことをいつも安心して見ていてくれる。 | **.517** | .390 | .037 | .311 | .089 |
| 9 | ○○が困った時、○○は私の援助を期待するだろう。 | **.513** | .191 | .330 | .224 | −156 |
| 10 | ○○は、私と共通の話題がある。 | **.512** | .115 | .184 | .187 | .163 |
| 11 | ○○は、「私の行動は信用できる」と思っている。 | **.510** | .447 | .117 | .227 | .035 |
| 12 | ○○は、私の○○に対する態度に満足している。 | **.496** | .226 | .167 | .437 | .231 |
| 13 | ○○は、私から○○として認められていると思っている。 | **.475** | .404 | .114 | .057 | .269 |
| 14 | 私は○○に頼りにされている。 | **.466** | .345 | .166 | .317 | −.107 |
| 15 | ○○は、私の前で「本当の自分」を出しているだろう。 | **.463** | .165 | .000 | .039 | .245 |
| 16 | 私は○○から大切なことをまかされる。 | **.456** | .257 | .248 | .270 | −.085 |
| 【被期待】 | | | | | | |
| 17 | ○○は、「私が充実した人生を切り開いていくだろう」と思っている。 | .308 | **.684** | .118 | .183 | .143 |
| 18 | ○○は、「将来、私はなんとかやっていけるだろう」と思っている。 | .252 | **.576** | .066 | .110 | .039 |
| 19 | ○○は、「私には責任感がある」と思っている。 | .296 | **.541** | .119 | .078 | .038 |
| 20 | ○○は、「私が新しいことに挑戦するような人間である」と期待している。 | .216 | **.485** | .261 | .117 | .072 |
| 21 | ○○は、「私の○○としてふさわしい人だ」と私に思われたい。 | .206 | **.461** | .346 | −.103 | .113 |
| 22 | ○○は、「たとえ○○が態度を変えても私は受け入れるだろう」と思っている。 | .203 | **.456** | .206 | .166 | .399 |
| 【被共通】 | | | | | | |
| 23 | ○○は私に対して、「同じセンス（感覚）を持っていてほしい」と思っている。 | .058 | .019 | **.685** | −.092 | .152 |
| 24 | ○○は私に対して、「似た考えを持っていてほしい」と思っている。 | .130 | .153 | **.626** | −.241 | .152 |
| 25 | ○○は私に対して、「同じように感動してほしい」と思っている。 | .099 | .345 | **.534** | .030 | .121 |
| 26 | ○○は私に対して、「似た性格になってほしい」と思っている。 | .151 | .086 | **.534** | −.061 | .030 |
| 27 | ○○は、「私にほめてもらいたい」と思っている。 | .252 | .129 | **.408** | −053 | −.097 |
| 【被満足】 | | | | | | |
| 28 | ○○は、「私が今の○○に不満を感じている」と思っている。≪R≫ | .106 | −.121 | −.074 | **.581** | .251 |
| 29 | ○○は、いつも私の行動を疑（うたが）って見ている。≪R≫ | .207 | .131 | .−.138 | **.479** | .−.013 |
| 30 | ○○は、「私が○○の期待を裏切りそうだ」と思っている。≪R≫ | .118 | .142 | −.209 | **.478** | −.003 |
| 31 | 私は○○から当てにされていない。 ≪R≫ | .274 | .238 | −.028 | **.402** | −.030 |
| 【被受容】 | | | | | | |
| 32 | ○○は、「○○のどんな姿でも、私が受け入れてくれる」と思っている。 | .456 | .219 | .296 | .093 | **.505** |
| 33 | ○○は、「私が○○のありのままを受け入れるだろう」と思っている。 | .240 | .391 | .318 | .153 | **.502** |
| | 二乗和 | 5.71 | 3.55 | 2.73 | 1.96 | 1.21 |
| | 寄与率（%） | 17.3 | 10.8 | 8.3 | 5.9 | 3.7 |

**表２　被信頼感の各下位尺度の相関**

| | | 父親について | | | | | 母親について | | | | | 親友について | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 被信用 | 被期待 | 被共通 | 被満足 | 被受容 | 被信用 | 被期待 | 被共通 | 被満足 | 被受容 | 被信用 | 被期待 | 被共通 | 被満足 | 被受容 |
| 父親 | 被信容 | 1 | .698 | .372 | .418 | .628 | .728 | .611 | .346 | .566 | .550 | .439 | .413 | .215 | .172 | .287 |
| | 被期待 | .698 | 1 | .429 | .235 | .607 | .597 | .813 | .445 | .439 | .634 | .399 | .579 | .324 | .167 | .425 |
| | 被共通 | .372 | .429 | 1 | −.125 | .426 | .285 | .269 | .752 | .029 | .326 | .180 | .207 | .535 | −.160 | .163 |
| | 被満足 | .418 | .235 | −.125 | 1 | .210 | .276 | .250 | −.050 | .704 | .226 | .116 | .093 | −.080 | .482 | .059 |
| | 被受容 | .628 | .607 | .426 | .210 | 1 | .476 | .450 | .343 | .339 | .790 | .334 | .374 | .285 | .087 | .503 |
| 母親 | 被信用 | .728 | .597 | .285 | .276 | .476 | 1 | .658 | .417 | .580 | .584 | .584 | .503 | .289 | .173 | .353 |
| | 被期待 | .611 | .813 | .269 | .250 | .450 | .658 | 1 | .349 | .526 | .556 | .446 | .656 | .256 | .187 | .396 |
| | 被共通 | .346 | .445 | .752 | −.050 | .343 | .417 | .349 | 1 | .083 | .413 | .268 | .289 | .644 | −.130 | .235 |
| | 被満足 | .566 | .439 | .029 | .704 | .339 | .580 | .526 | .083 | 1 | .422 | .288 | .292 | .015 | .455 | .179 |
| | 被受容 | .550 | .634 | .326 | .226 | .790 | .584 | .556 | .413 | .422 | 1 | .396 | .451 | .316 | .127 | .627 |
| 親友 | 被信用 | .439 | .399 | .180 | .116 | .334 | .584 | .446 | .268 | .288 | .396 | 1 | .701 | .410 | .372 | .593 |
| | 被期待 | .413 | .579 | .207 | .093 | .374 | .503 | .656 | .289 | .292 | .451 | .701 | 1 | .430 | .289 | .611 |
| | 被共通 | .215 | .324 | .535 | −.083 | .285 | .289 | .256 | .644 | .015 | .316 | .410 | .430 | 1 | .110 | .377 |
| | 被満足 | .172 | .167 | −.160 | .482 | .087 | .173 | .187 | −.130 | .455 | .127 | .372 | .289 | −.110 | 1 | .258 |
| | 被受容 | .287 | .425 | .163 | .059 | .503 | .353 | .396 | .235 | .179 | .627 | .593 | .611 | .377 | .258 | 1 |

との相関が父親，母親の関係ほど高くないことも確認された。特に，父親と母親の「被期待」の相関係数が.81と最も高い値を示した。父親と親友の「被共通」と「被満足」は負の強い相関（r＝－.13, r＝－.11, 1%水準で有意）を示した。母親の「被共通」と「被満足」は正の弱い相関（r＝.08, 5%水準で有意）を示した（表２）。

## 2.被信頼感に及ぼすデモグラフィックな要因

被信頼感に及ぼす学校・学年・性別の３要因の影響を明らかにするために，分散分析を行った。被信頼感については, 下位尺度の父親・母親・親友のそれぞれ５つの下位尺度を従属変数として, 分散分析を行った（表３）。

その結果，学校間の比較をすると，A 校と B 校では父親・母親・親友の合計15の下位尺度のうち８尺度において，A 校が有意に高い値を示した。父親に関しては「被信用」（F（1, 594）＝14.73　p＜.01），「被期待」（F（1, 596）＝25.78　p＜.01），「被受容」（F（1, 595）＝6.98　p＜.01）において，母親に関しては「被信用」（F（1, 595）＝19.78　p＜.01），「被期待」（F（1, 595）＝37.60　p＜.01），「被満足」（F（1, 596）＝9.71　p＜.01），「被受容」（F（1, 596）＝16.75　p＜.01）において，親友に関しては「被期待」（F（1, 595）＝11.73　p＜.01）において有意な差がみられた。

学年間では，父親に関しては有意な差はみられなかった。母親と親友についての「被受容」（母親：F（2, 596）＝2.70　p＜.05, 親友：F（2, 596）＝3.63　p＜.05）の下位尺度のみ有意な差がみられ，いずれも３年生より２年生が高い値を示した。

性別では，父親についての「被受容」（F（1, 595）＝6.1　p＜.05）に有意な差がみられ，母親では「被満足」以外の４つの尺度に，親友については５つの下位尺度全てにおいて有意な差がみられた。いずれも女子が男子よりも高い被信頼感を示していた。特に親友については５つの下位尺度ともに, 1%水準で性差がみられ，男子より女子の被信頼感が高い結果であった。

## 表３　学校・学年・性別の被信頼感下位尺度の平均と標準偏差

| | | | A校 | | | | | | B校 | | | | | | 分散分析 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 交互作用 | | | | | | |
| | | | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 学校 | 学年 | 性別 | 学校･学年 | 学校･性別 | 学年･性別 | 学校･学年･性別 |
| 父親について | 被信容 | 平均 | 39.07 | 39.19 | 38.75 | 39.16 | 37.75 | 37.02 | 35.11 | 35.93 | 36.46 | 35.09 | 35.38 | 36.33 | **14.73** | .44 | .00 | .77 | .02 | .15 | .50 |
| | | S.D. | 7.71 | 9.95 | 9.25 | 9.09 | 7.84 | 8.08 | 8.79 | 8.45 | 9.47 | 8.55 | 8.76 | 8.60 | ** A>B | | | | | | |
| | 被期待 | 平均 | 16.62 | 16.1 | 16.18 | 16.32 | 15.84 | 16.80 | 13.45 | 15.56 | 15.14 | 14.89 | 14.98 | 15.17 | **25.78** | 0.32 | 2.4 | .52 | .74 | .81 | 3.63 |
| | | S.D. | 3.21 | 3.60 | 3.66 | 4.07 | 3.22 | 2.48 | 3.91 | 3.75 | 3.30 | 2.99 | 3.29 | 3.45 | ** A>B | | | | | | * |
| | 被共通 | 平均 | 8.18 | 8 35 | 9.38 | 8.89 | 8.24 | 8.07 | 8.04 | 8.78 | 8.55 | 8.00 | 7.85 | 8.77 | .82 | 1.91 | .26 | 2.65 | 1.68 | 2.3 | .63 |
| | | S.D. | 2.50 | 2.58 | 2.70 | 2.91 | 2.28 | 2.35 | 2.32 | 2.74 | 2.18 | 2.49 | 2.39 | 2.45 | | | | | | | |
| | 被満足 | 平均 | 11.91 | 11.58 | 11.96 | 11.95 | 11.73 | 11.61 | 12.04 | 11.24 | 11.59 | 11.22 | 11.55 | 11.12 | 3.01 | .41 | 3.21 | .48 | .98 | .35 | .01 |
| | | S.D. | 2.30 | 2.38 | 1.82 | 2.37 | 2.52 | 1.92 | 1.96 | 2.49 | 2.50 | 2.54 | 2.60 | 2.34 | | | | | | | |
| | 被受容 | 平均 | 5.00 | 5.19 | 5.00 | 5.16 | 4.85 | 5.00 | 4.56 | 5.27 | 4.67 | 4.74 | 4.23 | 4.78 | **6.98** | 1.86 | **6.1** | .37 | 1.28 | .64 | .57 |
| | | S.D. | 1.60 | 1.67 | 1.55 | 1.48 | 1.35 | 1.12 | 1.46 | 1.63 | 1.65 | 1.58 | 1.27 | 1.42 | ** A>B | | * 男子＜女子 | | | | |
| 母親について | 被信用 | 平均 | 33.11 | 35.79 | 33.84 | 36.32 | 32.05 | 34.63 | 29.44 | 33.66 | 29.41 | 33.57 | 31.13 | 34.17 | **19.78** | .13 | **35.1** | 2.58 | 1.3 | .13 | .13 |
| | | S.D. | 6.38 | 7.13 | 6.86 | 6.01 | 5.76 | 5.24 | 7.23 | 5.88 | 7.52 | 6.88 | 6.95 | 5.74 | ** A>B | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被期待 | 平均 | 14.16 | 13.81 | 13.96 | 14.28 | 13.47 | 14.44 | 11.34 | 13.10 | 12.35 | 12.80 | 12.55 | 13.10 | **37.60** | .57 | **6.47** | .59 | 1.60 | .23 | 2.56 |
| | | S.D. | 2.63 | 2.96 | 3.02 | 2.42 | 2.67 | 2.48 | 3.38 | 3.00 | 3.26 | 2.62 | 2.83 | 3.28 | ** A>B | | * 男子＜女子 | | | | |
| | 被共通 | 平均 | 12.73 | 13.56 | 14.25 | 14.50 | 12.82 | 13.44 | 12.32 | 13.80 | 12.98 | 13.04 | 12.05 | 14.00 | 3.47 | 2.12 | **9.81** | 2.35 | 1.17 | 1.66 | .62 |
| | | S.D. | 3.22 | 3.63 | 3.25 | 3.88 | 2.74 | 2.79 | 3.29 | 3.21 | 3.37 | 3.81 | 3.40 | 3.44 | | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被満足 | 平均 | 17.20 | 17.21 | 17.21 | 17.36 | 16.67 | 16.93 | 16.18 | 16.54 | 16.37 | 16.20 | 16.25 | 16.12 | **9.71** | .54 | .09 | .18 | .05 | .05 | .20 |
| | | S.D. | 2.74 | 3.60 | 2.88 | 3.48 | 3.21 | 2.72 | 2.85 | 2.69 | 3.41 | 3.64 | 3.61 | 3.35 | ** A>B | | | | | | |
| | 被受容 | 平均 | 7.80 | 8 19 | 7.82 | 8.50 | 7.58 | 7.85 | 7.00 | 7.76 | 7.22 | 7.74 | 6.55 | 7.47 | **16.75** | **2.70** | **12.97** | .03 | .75 | .00 | .51 |
| | | S.D. | 2.16 | 2.20 | 2.07 | 1.84 | 1.64 | 1.37 | 2.08 | 2.29 | 2.32 | 1.96 | 1.69 | 1.83 | ** A>B | * 2年＞3年 | ** 男子＜女子 | | | | |
| 親友について | 被信用 | 平均 | 43.29 | 45.81 | 42.77 | 47.95 | 40.71 | 46.34 | 40.69 | 48.05 | 40.22 | 45.72 | 41.90 | 46.48 | 1.08 | .32 | 70.30 | 2.20 | 1.25 | .04 | 2.15 |
| | | S.D. | 7.03 | 7.69 | 7.83 | 4.95 | 8.29 | 6.15 | 8 23 | 5.25 | 9.67 | 6.84 | 7.52 | 6.59 | | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被期待 | 平均 | 14.00 | 14.15 | 13.63 | 14.39 | 13.22 | 14.10 | 12.04 | 14.2 | 12.63 | 13.61 | 12.83 | 13.58 | **11.73** | .20 | **17.92** | .49 | 2.44 | .22 | 2.19 |
| | | S.D. | 2.62 | 2.58 | 2.93 | 2.08 | 2.89 | 2.53 | 3.07 | 2.66 | 3.01 | 2.47 | 2.74 | 2.60 | ** A>B | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被共通 | 平均 | 11.16 | 11.31 | 11.43 | 11.45 | 10.80 | 11.44 | 10.86 | 12.17 | 10.09 | 11.20 | 10.08 | 11.70 | .25 | .89 | **8.54** | .78 | 3.07 | 1.47 | .36 |
| | | S.D. | 2.78 | 2.93 | 2.84 | 2.97 | 2.54 | 2.25 | 2.88 | 3.33 | 2.74 | 3.02 | 2.48 | 2.59 | | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被満足 | 平均 | 12.42 | 12.85 | 12.32 | 13.14 | 12.09 | 12.76 | 12.48 | 12.49 | 12.53 | 12.98 | 12.73 | 13.07 | .54 | .45 | **8.08** | 1.35 | 1.37 | .61 | .01 |
| | | S.D. | 1.91 | 1.75 | 1.67 | 1.66 | 2.49 | 2.07 | 1.83 | 1.98 | 1.94 | 1.86 | 1.91 | 1.81 | | | ** 男子＜女子 | | | | |
| | 被受容 | 平均 | 7.82 | 8.35 | 8.07 | 9.00 | 7.65 | 8.24 | 7.32 | 8.59 | 7.59 | 8.67 | 7.35 | 8.02 | 2.88 | **3.63** | **28.87** | .26 | 1.06 | .51 | .44 |
| | | S.D. | 1.93 | 2.10 | 1.88 | 1.49 | 2.00 | 1.55 | 1.95 | 2.20 | 2012 | 1.84 | 1.82 | 1.72 | | * 2年＞3年 | ** 男子＜女子 | | | | |

** 1%水準で有意
* 5% 水準で有意

**表４　被信頼感下位尺度における信頼感影響経験測定項目得点との相関**

| | | 受容経験 | 承認経験 | 親密経験 | 傷付経験 |
|---|---|---|---|---|---|
| 父親について | 被信用 | .365 ** | .364 ** | .415 ** | －.176 ** |
| | 被期待 | .384 ** | .437 ** | .323 ** | .031 |
| | 被共通 | .017 | .003 | .074 | .055 |
| | 被満足 | .185 ** | .206 ** | .268 ** | －.252 ** |
| | 被受容 | .388 ** | .331 ** | .350 ** | .018 |
| 母親について | 被信用 | .508 ** | .471 ** | .540 ** | －.062 |
| | 被期待 | .435 ** | .499 ** | .328 ** | －.014 |
| | 被共通 | .102 | .099 | .180 ** | .079 |
| | 被満足 | .309 ** | .313 ** | .378 ** | －.252 ** |
| | 被受容 | .419 ** | .365 ** | .385 ** | .040 |
| 親友について | 被信用 | .599 ** | .540 ** | .322 ** | －.040 |
| | 被期待 | .487 ** | .546 ** | .261 ** | .027 |
| | 被共通 | .158 ** | .170 ** | .060 | .004 |
| | 被満足 | .285 ** | .339 ** | .207 ** | －.057 |
| | 被受容 | .474 ** | .421 ** | .203 ** | －.002 |

** 1% 水準で有意
* 5% 水準で有意

### 3.被信頼感尺度の妥当性の検証

作成した被信頼感尺度の妥当性を検証するため，信頼感影響経験測定項目の４つの因子(「受容経験」「承認経験」「親との親密な関わり経験」「対人的傷つき経験」）との相関をみた（表４）。その結果，被信頼感の父親・母親・親友の「被受容」と「受容経験」にそれぞれ中程度の相関がみられた。「承認経験」と相関が高かったのは父親・母親・親友それぞれの「被信用」と「被期待」であった。「親との親密な関わり経験」と父親・母親のほとんどの下位尺度との相関は高かった。親友とも関連がみられたが父親・母親ほどの高い関連はみられなかった。「対人的傷つき経験」では，父親・母親の「被満足」と負の相関がみられたことから，傷つき経験が，両親が自分に満足していない態度に関連しているという説明が成り立った。

### 4.被信頼感が信頼感に及ぼす影響

信頼感尺度の得点を因子分析してみると，天貝の研究とほぼ同様の結果が得られた。そこで天貝の命名にならい，第１因子を「不信」，第２因子を「他人への信頼」，第３因子を「自分への信頼」とした。これら３つの下位尺度の信頼性も認められた。（第１因子 $\alpha=.80$, 第２因子 $\alpha=.82$, 第３因子 $\alpha=.67$）

次に,3つの信頼感に被信頼感はどのような影響を及ぼしているかを検討するため，男女別に重回帰分析をおこなった（表５）。なお先に，被信頼感尺度において性差が明らかにみられたため，信頼感への影響を分析する際，男女別に分析した。

「不信」に影響を及ぼしていたのは，男子では父親からの「被満足」が５％水準で負の値で有意であり，女子では母親からの「被共通」において５％水準で正の値で有意であった。

「他人への信頼」に影響を及ぼしているのは，男子では母親からの「被満足」と親友からの「被信用」で,1%水準で強い影響がみられた。女子では親友からの「被信用」が男子と同じく１％水準で有意であった。

「自分への信頼」に影響を及ぼしていたのは,男子では１％水準で親友からの「被信用」が有意であり,5%水準では父親からの「被受容」と母親からの「被満足」であった。女子では５％水準で母親からと親友からの「被期待」が有意であった。

**表５　信頼感に影響を及ぼす被信頼感の重回帰分析**
**（標準偏回帰係数）**

| | | | 不信 | | 他人への信頼 | | 自分への信頼 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 父親から | 被信容 | −.169 | | .077 | | −.027 | |
| | | 被期待 | .151 | | .003 | | −.009 | |
| | | 被共通 | −.039 | | −.133 | | −.026 | |
| | | 被満足 | **−.194** | * | −.085 | | −.055 | |
| | | 被受容 | .205 | | .089 | | **.203** | * |
| | 母親から | 被信用 | .145 | | −.067 | | −.124 | |
| | | 被期待 | −.013 | | −.119 | | .203 | |
| | | 被共通 | .177 | | −.003 | | .007 | |
| | | 被満足 | −.122 | | **.316** | ** | **.251** | * |
| | | 被受容 | −.135 | | −.027 | | −.061 | |
| | 親友から | 被信用 | −.128 | | **.384** | ** | **.241** | ** |
| | | 被期待 | −.094 | | .072 | | .140 | |
| | | 被共通 | .016 | | .006 | | −.047 | |
| | | 被満足 | −.100 | | .039 | | .107 | |
| | | 被受容 | −.165 | | .073 | | −.064 | |
| | 説明率(R2) | | .247 | | .354 | | .368 | |
| 女子 | 父親から | 被信容 | −.149 | | .125 | | −.028 | |
| | | 被期待 | .205 | | −.139 | | .089 | |
| | | 被共通 | −.024 | | −.021 | | −.062 | |
| | | 被満足 | −.117 | | .082 | | −.026 | |
| | | 被受容 | .016 | | .025 | | .079 | |
| | 母親から | 被信用 | .062 | | .086 | | .047 | |
| | | 被期待 | −.069 | | .092 | | **.234** | * |
| | | 被共通 | **.236** | * | −.077 | | −.017 | |
| | | 被満足 | −.179 | | −.094 | | .036 | |
| | | 被受容 | −.051 | | .044 | | −.045 | |
| | 親友から | 被信用 | −.117 | | **.324** | ** | .113 | |
| | | 被期待 | −.121 | | .022 | | **.173** | * |
| | | 被共通 | .013 | | .083 | | .043 | |
| | | 被満足 | −.002 | | .031 | | .049 | |
| | | 被受容 | −.044 | | .066 | | −.083 | |
| | 説明率(R2) | | .226 | | .270 | | .267 | |

** 1% 水準で有意
* 5% 水準で有意

## 考察

### 1.被信頼感尺度について

本研究で作成した被信頼感尺度は，父親・母親・親友それぞれに同じ５つの下位尺度によって構成された。父親から信用されたり，期待されていると感じている強さと，母親からも信用され期待されていると感じている強さには強い関連があると考えられた。親友からの被信頼感は，父親よりも，母親との被信頼感との相関が高く，母親から信頼されていると感じられるほど親友からも信頼されていると感じていることが推測された。さらに，父親と親友の「被共通」と「被満足」は負の強い相関を示し，父親や親友が「満たされている」と感じられていても，似た考えや性格など「共通点を求めてほしい」とは感じていないことが明らかとなった。

次に，学校・学年・性別での分析では，父親・母親・親友の計15の下位尺度のうち，学校間においては８つについてＡ校で有意に高く，学年では親友の１つの尺度において２年生が有意に高く，性別では10尺度において女子が高い結果が得られた。学校間の差が多くみられたのは，親友より父親・母親に関してであり，Ａ校の生徒のほうがより両親から信頼されていると感じていると推測される。Ａ校はその地域で

の進学校のひとつである。そのことからＡ校に通学する生徒は小学生や中学生の頃から，ひとつには学力面において両親から信頼されてきていることが考えられる。また逆に，両親から信頼されていると感じられる子どもたちが，進学校に進学していることも考えられる。しかし本研究では２校のみを調査した結果であるので，確かな結果とは言い難い。

性別では，母親・親友において母親の「被満足」以外のすべてに男子より女子に有意な差がみられ高い被信頼感が見られたことから，女子は男子より特に母親と親友から信頼されていると感じている度合いが高いと推測される。男子より女子が信頼されていると感じられることには，天貝（1996a）が信頼感の研究で指摘したように女子の方が男子より他者に対する依存性が高いことが，その要因のひとつだと考えられる。依存性が高いということは，他者に頼り自分の欲求を満たそうとするということでもある。被信頼感の定義にある，他者の欲求を感じるという視点からすると，被信頼感を感じるとは，ある意味で自分は依存される側となるともいえる。そこで依存性が高い女子高校生が男子より，母親や同性の親友に対して女性同士において，相互に依存し合い，被信頼感が高くなったことが考えられる。

学年差では１つの尺度にしか有意差がみられなかったことから，被信頼感には学年差はあまりみられないと考えられる。学年では母親と親友の「被受容」に関してのみ２年生が３年生より信頼されていると感じている。２年生は学校にも馴染み親友との交流も深まった頃であり，また大学受験や就職にもまだ時間的に余裕があり，母親との葛藤がまだ少ないと考えられる。しかしながら，他の下位尺度においては差が見られなかったことより，必ずしも２年生が１年生や３年生に比べ高い被信頼感をもつとは断言できない。

最後に，被信頼感の下位尺度と信頼感影響経験測定項目の相関の結果から，受容された経験を多くもつことが，母親や親友から信用されていると感じたり，受容されている・期待されていると感じていることが強くなると推測される。また，認められた経験をもつことで，母親や親友から信用され，父親・母親・親友から期待されていると感じていることが推測された。さらに，親との親密な関わりを経験することで，父親・母親から自分は信用されていると感じることが強くなると推測される。一方，他人から傷つけられたという経験がある場合，両親が自分に対して満足していないと強く感じていることが推測される。

このような結果から，２つの尺度の相関が高い項目において，その関係が説明できる内容であったことと，被信頼感に関係すると思われる下位尺度に高い相関がみられたことから，今回作成した被信頼感尺度には妥当性があると考えられる。

**2.被信頼感が信頼感に及ぼす影響**

**・「不信」について**

信頼感の３つの下位尺度のうち「不信」に影響を及ぼしていたのは，男子では父親からの被信頼感であり，女子では母親からの被信頼感であった。

具体的には，男子では父親から満足感を感じることが出来ることは不信を抑制する働きがあると言える。例えば”父親は，僕が今の父親に不満を感じているとは思っていない”状態が，”所詮，周りは敵ばかりだと感じる”ことを抑制する作用があることが明らかになった。

女子では，母親から共通点を持ちたいと求められることが不信感を生み出すという興味深い結果がえられた。これは例えば”母親は私に対して，似た考えを持っていてほしいと思っている””同じセンス（感覚）を持っていてほしい”と感じることが，”所詮，周りは敵ばかりだ”とか，”今は何かと話せても，他人など全く当てにならない”と感じることを助長するということである。このことは，同じでありたいと望む母親は，心理的離乳の時期を迎えた女子高校生にとって過干渉に感じられることが関係している（金子，2001）可能性が推測される。

**・「他人への信頼」について**

男女共に，親友から信用されることによって他人を信頼できるようになるという高校生の信頼関係の一端が垣間見ることが出来た。

男子に関しては，加えて，母親から信用されていると感じられることが他人を信頼できることに結びついていた。

男女とも親友からの「被信用」が「他人への信頼」に強い影響を及ぼしているという結果からは，次のことが考えられる。親友から信用され，必要な存在だと思われていることは，親友を信頼し，引いては他者全体を信頼できるということに結びつくのだろう。また，父親・母親からの「被信用」は有意な影響を及ぼしていなかったことから，高校生においては，他人を信頼するということに関して，両親よりも，親友からの信用をもとに，他者を見ていることが推測できる。天貝（2001）の心理的距離と信頼感の研究において，高校生では「他人への信頼」に関連がみられたのは，家族より友人のほうが強く，また，高校生では家族との心理的距離と「他人への信頼」との関連が，中学生と比較してもより薄まっているという知見が見出されていたが，本研究においても「他人への信頼」に両親よりも親友からの影響が強かったことは，天貝の結果と同様であった。

また大和田（2001）が，親の受容的な養育態度と親への信頼，友人の受容と親密的な態度が「他人への信頼」に影響を及ぼし「信頼感は身近な特定の人から周囲への人へと般化していく構造が確認された」と述べたこととも一致する結果がみられた。これらのことから，自分を信頼してくれるような親友をもつことの重要性が示唆された。

**・「自分への信頼」について**

男子については，弱い影響ではあるが父親が息子から受け入れられていると感じていることが，息子が自分自身を信頼できることに結びついていることが明らかになった。また，母親から満足して見られていると感じられることと，親友から信用されていると感じられることが自分自身への信頼に結びついていたことがわかった。

女子については，母親や親友から充実した人生を切り開いていくだろうとか，なんとかやっていけるだろうと期待されることによって，自分への信頼を高めることにつながるという結果となった。この「被期待」は，男子において有意な結果がみられなかったことから，この点は女子特有の傾向だと言えよう。男子とは異なり，父親からの被信頼感は関係がなかったことに関して，女子高校生にとっての父親像がいかなるものであるかについてさらに検討する必要があると思われる。

## まとめと今後の課題

本研究の目的は，被信頼感尺度の作成と，それを用いて青年期において重要な他者である父親・母親・親友からの被信頼感が信頼感に及ぼす影響について検討することであった。本研究の成果としては，まず今まで取り上げられなかった”信頼されるという感覚”について取り組んだことが挙げられる。この感覚の重要性については先にも述べたが，より充実した信頼感を獲得するために欠くことのできないものであると考えている。今回作成した被信頼感尺度は，信頼感影響測定項目などの尺度との関連より，妥当性のある尺度であると考えられる。さらに，被信頼感尺度を用いて測定した被信頼感は信頼感へ影響を及ぼしていることが確認された。

加えて，高校生にとって自分を信用してくれると感じられる親友の存在が信頼感を高めるという，親友の重要性が検証された。また被信頼感の影響は性差によって異なり，男子では母親が自分に満足感を感じていると思っていることが他人を信頼することに影響を及ぼしていた。さらに男子では父親からの満足感を感じることによって不信感が抑制され，女子では親友と母親から期待されることが自分への信頼を高めることが認められた。このことから，信頼感を高めるには，対象によってそれぞれ異なる被信頼感を高めることが重要であると言えよう。ここで性差によって被信頼感の違いが見られたことは興味深い結果であった。さらに，被信頼感そのものについても，父親と母親から高い被信頼感を感じることと学力の違いがある高校の在籍との関連がみられたことは興味深い点であろう。

本研究においては，高校生の被信頼感を主観的な回答に注目し，検討した。しかし自己報告だけに頼らず，他のより客観的な方法による検討も必要であろう。また被信頼感は，今回初めて取り上げた概念であり，被信頼感の発達的側面など更なる研究がこれから必要であると考えられる。

## 引用文献


天貝由美子　1997　中・高校生の学校適応感と信頼感との関係　筑波大学心理学研究, 19, 1－5.

天貝由美子　1997　成人期から老年期に渡る信頼感の発達―家族および友人からのサポート感の影響　Japanese Journal of Educational Psychology, 45, 79－86.

天貝由美子　2001　『信頼感の発達心理学―思春期から老年期に至るまで』新曜社

宇都宮　博　1999　青年がとらえる両親の夫婦関係―親子関係，家族システムとの関連―　日本家政学会誌, 50, 5, 455―463.

Erikson, E.H.　1955　Childhood and Society　New York:Norton（仁科弥生訳　1980『幼児期と社会』みすず書房）

Erikson, E.H.　1959　Identity and the Life Cycle New York:Norton（小此木啓吾訳　1973『自我同一性』誠信書房）

Erikson, E.H.　1973　Identity:Youth and Crisis（岩瀬庸理訳　『アイデンティティ　青年と危機』金沢文庫）

大和田喜美　2001　思春期の信頼感を促進する要因の検討―親，友人および対自己，対一般他者に対する信頼感の構造―　聖マリアンナ医学研究誌, 1（76）, 53―59.

数井みゆき・遠藤利彦・田中亜希子・坂上裕子・菅沼真樹　2000　日本人母子における愛着の世代間伝達　教育心理学研究, 48, 323―332.

金子俊子　1994　青年期の自己―他者関係と基本的信頼感及び愛着スタイルとの関連　日本心理学会，第58回大会発表論文集, 348.

金子俊子　2002　青年期女子の愛着スタイルが他者関係に及ぼす影響―基本的信頼感から親密性へのプロセスについて―　大阪産業大学論集，人文科学編, 106, 31―50

酒井　厚　2001a　青年期の愛着関係と就学前の母子関係―内的作業モデル尺度作成の試み―　　性格心理学研究, 9, 59―70.

酒井　厚　2001b　青年期の親密な他者との関係における信頼感　ヒューマンサイエンスリサーチ, 10, 79―93.

酒井　厚・菅原ますみ・眞榮城和美・菅原健介・北村俊則　2002　中学生の親および親友との信頼　関係と学校適応　教育心理学研究, 50, 12―22.

菅原ますみ・八木下暁子・詫摩紀子・小泉智恵・瀬地山葉矢・菅原健介・北村俊則　2002　夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連―家族機能および両親の養育態度を媒介として―　教育心理学研究, 50, 129―140.

谷　冬彦　1996　基本的信頼感尺度の作成　日本心理学会，第60回大会発表論文集　310.

松井　洋　2001　日本の中学生の親子関係　川村学園女子大学研究紀要，第12巻，第１号, 171―180.

三宅和夫　1993　『乳幼児の人格形成と家族関係』放送大学教育振興会

山岸俊男　1998　『信頼の構造―こころと社会の進化ゲーム』東京大学出版会

Rosenberg, M. 1965　Society and the adolescent self−image. Princeton University Press